

平成28年度「校外へ公開する研究授業」実施報告書

実施年月日(曜)	平成 29年 1月 24日 (火)						
授業時間(時限)	10時 45分～ 11時 40分 (第3 時限)						
公開学年・公開教科 (公開授業名)	2年7組 コンピュータLL演習 「卒業論文プレゼンテーション・ファイナル」						
授業者名	寺島 正浩 教諭 ALT						
形態	初任研・10年研・教育課程研究委員会・ 小中高算数・数学研究会・その他(21世紀型教育モデル校研究会)						
授業公開 対象者	校内外の先生方、県教委事務局の先生方						
授業参観者数	校内		校外			その他	合計
	教職員	保護者	教職員	その他	生徒	()	
	12人	人	7人	2人	人	人	
校外の人々の参観 にあたって特に配 慮した取組	・駐車場の確保、受付・校内案内図・控室の準備、資料制作						
授業研究会の 時間・参加者 の範囲・参加 人数・参加者 から出された 主な感想・意 見	11時 50分～ 12時 45分 【授業者より(意見交換の内容を含む)】 今回の授業に至る、これまでの発信型授業の取り組みの流れについて報告。卒業論文プレゼンテーションの予選から決勝までの進め方について(代表者の選出)、準備の段階で行われた生徒の探究的な活動について。さらに自らALTを活用したり、調査および動画制作などに取り組んだことについてなどが報告された。 また、今回の授業で行われた、主体的であり、アクティブに展開される学びの形が、今までの国際教養科の教育活動の中で、年々形作られてきたことが報告された。 (21世紀型教育モデル校の研究報告) 3年間の取り組みが報告された。特に探究的で発信型の授業を展開するために、行事を活用しながら様々な授業方法により展開してきたことが報告される。特に、善光寺ガイドを中心とした取組、ガイドブックの作製、今年度の信州学での探究学習に結び付けてきたことなどが成果としてあげられる。 (教学指導課主任指導主事より) 21世紀型学力を育成するための授業は、何か新しいことに取り組まなくてはならないということではない。今までの授業を発展させることで21世紀型になっていくものもある。今回の授業はそんな活動の典型であろう。学びに向かう姿勢、言語活動、探究的で思考力や判断力を養う要素がふんだんに盛り込まれており、時代の最先端を行くものである。こうした形態はどの授業でも実施可能である。この取り組みが他の教科や学校全体に広がっていくためにはどのような手段が必要かを検討していく必要がある。						
	【「学びの改革 基本構想」に関する意見交換】 意見交換の中で、様々な意見・要望が出された。 ・広く先生方に浸透させていく必要性。 ・今までやってきたことを発展させるというスタンスを表に出してほしい。 ・技能として教えなければならないこととの両立の研究が必要 ・既存の枠組みの再編成、学校全体での発想の転換も必要 ・学校の規模での再編成だけではなく学級規模にも着目する必要があるのではないか。 ・交通の利便性との関連はどうか など。						
成果と課題	国際教養科の活動は長年の積み重ね、および3年間の教育モデル研究校としての取り組みの成果として、探究的発信型授業が日常の教育活動として定着してきている。この活動を学校全体に広げ共有化し、さらには全県へ拡大させていくことが今後の取り組みの目標となるであろうと考える。						